

ペンキぬり

二学期が始まり船穂小学校に子どもたちの声が戻ってきました。始業式の朝は校舎が何かしら引き締まった空気つつまれているように感じます。始業式で子どもたちに、夏季休業中に中央階段と廊下の壁面と校舎東の二階と三階のベランダの手すりのペンキ塗りを先生方としたことを話しました。

7月25日と26日、8:30～からの二時間、比較的作業しやすい時間という設定でした。わたしは、高矢先生、塚越先生、佐々木先生、三宅先生とベランダの手すりを塗るチームでした。高矢先生がスクレイパーで浮いた塗装面をはがし、塚越先生がワイヤーブラシでこすり、わたしはグラインダーで錆びを削ります。下地が出来た後を佐々木先生と三宅先生がさび止め塗料を塗り、全員で水色の上塗りを塗って仕上げるという段取りです。しかし、予想以上に腐食していて、思いの外時間がかかったし、一日目はゴーグルは付けていたけれども防塵マスクをつけ忘れていて、作業が終わって鼻をかむと鼻水が赤さび色でとても驚きました。予定の作業時間ではとうてい終えられそうもなく、正午まで延長してがんばったけれども計画の半分も作業は進みませんでした。

教頭先生に「終わりそうもないで。」と言うと「廊下と階段ははかどっているの、明日は終わったところからベランダに回ってもらいます。」とのうれしい返事がありました。翌日の朝礼で「ベランダの作業が終わりそうもないので、階段と廊下の作業が終わった人からベランダに回ってください。」と言うと、明らかに空気が変!!。「何言うトン。」「そっちに行けるはずがないが。」という無言の抵抗を感じました。そうか、廊下や階段も大変なんだ!!。結局、二日目も5人だけの作業になり、下塗りの途中までしかできませんでした。

わたしは、興味が「サマーフェスティバル in FUNAO」の「わなげ」と「フリースローゲーム」に移ってしまって手伝わなかったのですが、残りの下塗りと上塗りも何とかお盆明けには終わり、階段も廊下も手すりも見違えるほどきれいになりました。

船穂小学校は山陽本線の電車からよく見え、校舎の白い壁と水色の手すり、校庭の芝生、フェニックスの色合いがきれいで、ずっと以前から電車から見るたびにきれいな学校だなあと感じていました。でも、最近手すりがさびて赤茶けたために校舎全体がずいぶん傷んだように見えて気になっていました。

もとのきれいな水色の手すりになったことをうれしく思うし、きっと何年かたって電車の車窓から船穂小学校を眺めた時に、「昔、暑い中を先生方と一緒にペンキを塗ったなあ。」となつかしく思い出さずんざらうと思いました。

「美しい学校」「倉敷で一番掃除ができる学校にする。」といっためあては、学校をきれいに保つということ以上に、学校に対する愛着や所属感を高めることをねらっているように思います。

二学期も、子どもたちと先生方と保護者の皆様と力を合わせてがんばりたいと思っています。

